

8-5			
主題	アセスメントシートを活用し事故予防・危険予測向上を目指す。		
副題	ご利用者を知ってケアに活かそう！！		
キーワード1	リスクマネジメント	キーワード2	
研究期間	15ヶ月		

法人名	社会福祉法人 あそか会		
事業所名	特別養護老人ホーム 塩浜ホーム		
発表者：藤巻 進 (ふじまき すずむ)	アドバイザー：介護支援専門員 松野 大樹		
共同研究者：遠藤 雄介 松本 香織			

電 話	03-5683-5571	FAX	03-5683-5575
-----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人あそか会が運営する塩浜ホームは、平成7年に開設され、今年20年の節目を迎えます。近年では、餅つき大会に力士を招き、地域の方々にも参加して頂き交流を行っています。特養60床3フロア、ショートステイ10床の小規模施設ですが、「利用者本位」の精神を大切に地域に根ざされた施設づくりを目指し日々努めています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

◎平成25年度に骨折を伴う重大事故が多発していた。現状に危機感を感じ少しでも事故を減らす取り組みとして、これまで使用していたインシデントレポートから、より多くの情報を得て事故予防へ繋げる為に記入しやすくしたヒヤリハット・気づきレポートへと書式を変更した。半年経過した時点で、ヒヤリハット・気づきの記入件数が徐々に減少し、その結果事故が減ることはなかった。記入件数の減少の理由を知り改善すべき点を明確にする為、全職員にヒヤリハット・気づきレポートに対してアンケートを実施。アンケートから「どの程度の事柄まで記入すべきなのか悩む」「業務に追われて記入が出来ない時がある」等の意見があったことから、ご利用者を「観る事が出来ていないのではないか」「気持ちを知る事が出来ていないのではないか」「行動を把握出来ていないのではないか」と課題が見えてきた。ご利用者の気持ちや行動を把握出来るようにアセスメントシートの改良を課題とした。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

○研究の目的

- ・ご利用者を観る目を養う。
- ・事故予防・危険予測への意識向上。

○期待する成果

- ・ご利用者を観る目を養い、より多くの情報を得る事で行動の把握・予測から、より実効性の高い事故予防対策に繋げる事が出来る。
- ・事故予防・危険予測の情報を文章にして可視化する事により職員間での意識の差を小さくし事故の減少に繋げる事が出来る。

上記の成果を期待しアセスメントシートの改良に取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

情報収集のツール・アセスメントシートの改良

- ①介護職員全員（常勤）の情報収集能力レベルの実態把握をするため、既存のアセスメントシートを使用し、各フロアで1名のご利用者を対象に介護職員2名1組を指名し2週間の記入期間を設けアセスメントを実施した。
- ② ①の体験職員にアンケートを実施、その結果からご利用者の情報が分散してシートが見つらいとの意見があがった為、アセスメントシートに加え自己紹介シートを新たに追加した。
- ③ ①と同様に別の介護職員2名1組で②の改善方法を用いてアセスメント・アンケートを実施。
- ④ ③のアンケート結果より、自己紹介シートを加えてもリスクマネジメントには繋がにくいと意見があり自己紹介シートに食事・排泄・移乗等のリスクを数字で危険度を5段階評価できるリスク早見表を作成し載せることとした。
- ⑤ ④を用いて①③で参加していない残りの介護職員でアセスメント・アンケートを実施。結果よりシートの改良が必要ないと判断。
- ⑥ ④を用いて各フロア1名のご利用者を対象に非常勤職員を含む全介護職員で行い、より多くの情報を記入してもらうことを目的にアセスメントを1ヶ月の記入期間を設け実施。
- ⑦ ⑥終了後にアンケートを実施しリスクマネジメントへの活用を検証を行う。

《4. 取り組みの結果》

◎アンケートより

- ・アセスメントシートを使用し自分の気づかなかったことに気づく事ができ、事故等の危険な状況の予測に繋がられた。
- ・自分だけの視点でその方を観るのではなく、他者のシートと見比べることで、別な視点から観る事も大事だと気づいた。
- ・リスク早見表を取り入れた事で、事故予防対策のイメージがしやすくなり事故を回避するための行動がよりとれるようになった。
- ・アセスメントをすることで新たな発見や気づきを職員同士で共有できた。

《5. 考察、まとめ》

アセスメントシートを導入した結果、個人で観た情報をフロアで共有する事によってご利用者を観る目を養うことができた。又、危険予知への意識が高まったことから骨折を伴った重大事故件数が平成25年度の6件から平成26年度は2件へ減少させる事が出来た。

課題

観る目を養うことが出来たが、意識の差が職員間で顕著にあることが分かった、その差を埋める為に本研究で使用したアセスメントシートを随時改良して行き、今後事例を使った危険予知・事故予防に対してのトレーニングを充実させていく必要がある。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり個人を特定できる情報は伏せ、本研究で得た情報はご本人のケアマネジメント以外では使用しないこと、それにより不利益を被る事はないことを口頭にて説明し回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

平成23年度東京都認知症介護実践者研修

資料：C-1-2 心身の情報(私の姿と気持ちシート)

《8. 提案と発信》

今回はアセスメントシートを活用し、危険予知・事故予防に繋げる事が出来ましたが、ご利用者1人1人の安全性を高めると共により充実した生活を送って頂けるように、その人らしさの追求にアセスメントシートを更に活用していきたいと思えます。